

# 医療法人芙蓉会 南草津病院

訪問リハビリテーション情報誌

# みなりハ

第17号

発行日 2016. 4月

4月になり優しく温かい春の日差しを感じ、心地よい季節になってきました。新入社員・新学年・新年度・新生活など、いたるところで「新しい」という漢字を目にする機会の多いこの時期、私達訪問リハビリスタッフも気持ちを新たに日々の仕事に取り組み、新鮮な気持ちで皆様と向かい合っていきたいと思っています。

昨年度、一年を通して“ひろがるリハビリテーション”というテーマのもと、日々の生活の中に目標を持って過ごしていただきたいとの思いで発行してきた“みなりハ”新聞ですが、今年度は訪問リハビリを卒業した方の「その後」の生活を紹介していきたいと考えています。皆様の中には、現在の自分の身体に対する不満や、今後の生活がどうなるのかなど、少なからず不安を抱えている方も多いと思います。そこで、皆様と同じように訪問リハビリを利用し、目標達成ののちご自身の努力や家族の協力のもと頑張っておられる方から、将来の自分を思い描く一つのヒントにしていきたいと考えています。さらに、皆様の生活やサービス利用に直接関係するような介護保険制度などについてのニュースがあれば、情報を発信していきたいと考えています。

皆様からもリハビリのことや介護保険のこと、その他生活に関する事など疑問に思う事があればスタッフやケアマネさんに尋ねてみてくださいね。その中でみんなで共有した方がよいと思われる内容があれば、“みなりハ”の中で紹介していければと思っていますのでよろしくお願いします。

☆早速ですがご報告です！

4月より、当事業所において新しく【社会参加支援加算】をとらせていただくことになりました(1日あたり 17単位)。既に担当スタッフから内容の説明を行い、契約内容の変更に同意をしていただけたと思いますが、再度説明が必要な方は気軽にスタッフまでお声かけください。

# み な り ハ 通 信

## ～「もう一度、以前のように過ごしたい！」～

今回皆様にご紹介するのは、昨夏の終わりころ、脳梗塞を発症された 70 代 男性の A さんです。幸いにも脳梗塞の程度は軽く、数日の入院後ご自宅に戻られていましたが、A さんは“軽い脳梗塞”という言葉をととても嫌っておられました。「自分にとっては、以前とは全く違う生活を送らなければいけないことになるから」と言っておられたのがとても印象的でした。A さんは右手に麻痺が残り、また歩くことが不安定になったり、気力や体力もなくなると同時に再発の不安から神経質になっておられる状態でした。

### 【発症後の A さん】

・朝食を作りたい  
・お箸や包丁を使いたい

・菊を育て近所に配りたい



・スクールガードに戻りたい  
・孫に手紙を書きたい

・車で買い物やドライブに行きたい

※訪問リハビリ開始直後は、長時間の立ち仕事とお箸や包丁・ハサミを使うことや、字を書くことなど、右手で行う細かな作業に対して自信をなくし、前と同じことはできないと思っておられました。

リハビリでは、身体全体を大きく使う体操や、立位のバランス訓練、手指で物を操作したり字を書く訓練などの他に、ほぼ毎週違う内容の自主トレ指導を行いました。ご本人の中では自分の思い描く身体の動き方が出来ずに焦りを感じておられる時期もありましたが、日々の生活で行う活動の一つ一つがリハビリであることを繰り返し説明し、上手に出来ないことで焦りを感じるのではなく、自主トレの継続や環境・道具を工夫することで自分のやりたいことが達成できる方法があるということを少しずつ理解されました。

ご利用期間も中盤にさしかかる頃には、1人で散歩に出られたり、手指の自主トレを行う道具を自ら購入されたり、運転免許更新の為に適正検査を受けに行かれたりと、気持ちが前向きになり、「以前行っていたことに、今出来る方法で挑戦してみようと思う」と話してくださるまでになっておられました。それから先は、リハビリの度に「先日妻と買い物に行きました」「年賀状をかきます」「朝食をつくりました」「来年にむけて菊の準備をしようと思います」など、様々なうれしい報告をしてくださるようになり、訪問リハビリを卒業することとなりました。

先日、A さんの家の前を通ると菊の鉢だけでなく新しいプランターが増えていました。A さんのその後の様子をケアマネさんに確認したところ、訪問リハビリを利用している期間と変わらず日課として自主トレを継続しておられ、また4月からスクールガードとして復帰されることや、奥様と旅行に行かれた話しなどを伺いました。